

ストレスホルモンと婦人科癌に関する最近の知見を解説しました (2016/10/7)

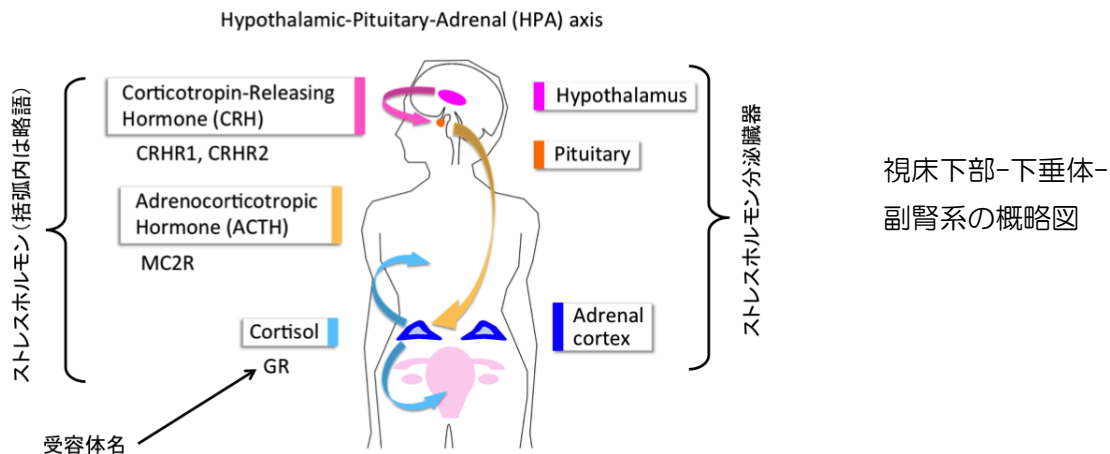
テーマ：ストレスホルモンの女性生殖器への影響

関連URL：山口内分泌疾患研究振興財団 (<http://www.yamaguchi-endocrine.org/index.html>)

公益財団法人山口内分泌疾患研究振興財団は、内分泌疾患の成因・診断・治療・予防等に関する多角的な研究をとおり、医学の進歩、国民の健康保持に貢献されており、女性医学においても多くの情報の供給源となっています。当研究所の三木康宏 講師（災害医学研究部門 災害産婦人科学分野／災害と健康ユニット）が、同財団のホームページにて「ストレスホルモンと婦人科癌」に関する最近の知見を解説しました。

身体は外部からの種々の刺激（ストレス）に曝されることによって、様々な反応（ストレス反応）を示すようになり、このストレス反応はいくつかのホルモンの連携で成立しています。何らかのストレスに曝されると、視床下部から副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン（corticotropin releasing hormone: CRH）が分泌されます。CRH は下垂体に作用し、下垂体前葉からの副腎皮質刺激ホルモン（adrenocorticotrophic hormone: ACTH）の分泌を促し、最終的に ACTH によって、副腎皮質束状層から糖質コルチコイド（glucocorticoid）であるコルチゾール（cortisol）が分泌され、身体各所に影響をおよぼします。以上の一連の流れを視床下部-下垂体-副腎系（hypothalamic-pituitary-adrenal axis: HPA axis）と呼びます（下図）。最終的に分泌されるコルチゾールの生殖器への影響については多くの研究が蓄積されて来ていますが、CRH および ACTH についての知見は乏しい状況です。今回は CRH および ACTH について、子宮および卵巣の癌での影響について、我々の研究室でのデータを含めて解説しました（詳細は関連 URL を参照ください）。

災害ストレスの生体におよぼす影響を知るためには、上述の関連ホルモンについて広く探索する必要があります。ホルモンの分泌に加え、それらに対する受容体の全身諸臓器での分布、各臓器におけるはたらきについても実際は明らかにはなっていません。ストレスがおよぼす影響を予測するためには検討すべき課題が山積みであることを感じます。ますますこの分野での研究を広く展開する必要があると考えています。



文責：三木康宏（災害医学研究部門）